

欧州インフラ事情調査報告

国際航業株式会社
技術本部 地理空間基盤技術部
デジタルセンシンググループ



佐々木 洋一
SASAKI Yoichi

はじめに

私は、入社以来主に測量やGISといった地理空間情報関連の分野の業務に従事してきた。私が所属する会社は、地理空間情報と建設コンサルタントそれぞれの技術者が協力して案件を進める事が多く、私は道路分野の案件をいくつか担当していた。そのような事もあり、上司から突然「応募しておいたからチャレンジしてみて」と言われたのが、平成27年度建設コンサルタント業務・研究発表会であった。そこで「クラウド型点検支援システムの開発・運用による業務改善」と題した発表を行い、光栄にも最優秀賞を受賞した。その副賞としてこのたびの「欧州インフラ事情調査」に参加させていただく事となった。

出発前は、他の参加者（建設コンサルタントとして各分野の専門家の方々）の中に溶け込めるのか、話題についていけないのか大いに不安を感じていた。しかしながら、中村先生は優しく測量の話振ってください、参加者の皆さんとは仕事だけに限らず様々な意見交換をさせていただき、旅程の途中からは当初の不安を忘れる

くらい充実した体験をすることができた。

本稿では、平成28年6月8日～17日の10日間で、4カ国の14都市を巡った中でも強く印象に残った事について紹介する。

過去の技術者たちが残した偉大な土木遺産

視察した土木構造物の中で特に印象に残ったのは、17世紀に当時の土木技術の粋を集めて完成した「ミディ運河」である。ミディ運河は、フランスのトゥールーズと地中海に面したトー湖との間を結ぶ約240kmの水路である。19世紀に鉄道が敷かれるまでは重要な輸送ルートであったが、現在は、運河クルーズで人気の観光地スポットとなっている。

今回は、ミディ運河がロルブ川の上を渡る運河橋と、世界初の運河トンネルである「マルパストンネル」を視察することができた。残念ながら、有名な「フォンセランヌの連続ロック」は工事により行くことができなかったが、それでも、300年以上前に作られたにもかかわらず現在も観光船の通行を可能にしている堅牢な作り、高



写真1 ミゲレテの塔の屋上に設置されていた三角点（大興奮したのは私だけ）【バレンシア】



写真2 ロルブ川に架かるミディ運河の「運河橋」【ベジエ】

低差が小さい中で240kmにも及ぶ長さの水路を測量・設計し、施工した当時の技術力の高さに感動を覚えた。

秩序のある都市景観

今回の視察では、大都市（各地方の中心都市）、地方都市、観光地など様々なヨーロッパの街を見ることができた。海外最良をするわけではないが、やはり日本と比べて美しい街並みであると感じた。ヨーロッパでは、行政による景観規制が厳しく、建築物の高さ・壁の色・新しく建築物を作ることを制限しているため、それぞれの街で統一感のある美しい景観が形成されている。建築物に限らず、屋外広告物の少なさと控えめな色使いも印象深かった（一方で、都市部・郊外を問わず住宅や公共建物に落書きが多数あり残念な面もあった）。

また、都市景観においては、無電柱化が進み電線が露出していないといったインフラ整備も大きく影響しているのではないと思う。日本ではそのように景観を重視している街は少なく、多様な建築物や派手な色使いをした屋外広告物で溢れている場合が多い。歴史や文化が異なるためヨーロッパと同じことはできないが、街の歴史を感じることができるよう景観を後世に残していけるような制度や取り組みは必要だと感じた。

人を中心とした都市の交通

今回は、ヨーロッパの中でも、先進的な取り組みをしていて交通インフラが充実している都市を視察することができた。スイスのベルンでは、街の中心部にトラムやバス（トロリーバスを含む）が運行されており、トラム・バス・一般自動車・自転車・歩行者がほぼフラットに整備された道路および軌道上を自由に行き交っていた。

また、環境首都として有名なドイツのフライブルクでは、渋滞や環境破壊へ対策として郊外から中心地への移動に自動車を使わないためのパークアンドライドの取り組みを視察することができた。公共交通が充実させることで、中心部の渋滞解消といったメリットだけでなく、景観や環境保全にも良い効果があることを実感した。

さらに、公共交通機関だけでなく、自転車に対する取り組みの充実も知ることができた。クレジットカード使用可能なレンタル自転車システムや、公共の駐輪場



写真3 中心都市街地の景観【モンペリエ】

整備、車道や歩道での自転車レーンの整備率も高く、歩行者や自転車の安全にも配慮されていることが印象に残った。日本でも近年は自転車を活用する人口が増えてきていることから、計画的なインフラ整備が重要であると感じた。

おわりに

視察の約半年前にパリ同時多発テロ事件が発生していたこともあり、出発前は多少不安な面があったが、今回の調査で滞在した都市ではどこも落ち着いていたように感じた。視察スケジュール的にも、モンペリエ〜リヨンの移動に使用する予定だったTGVがストライキによりバス移動になったこと以外に大きな変更はなかった。

視察中、各都市間の移動中に車内で行われた参加者によるプレゼンテーションはとても参考になったし、様々な専門分野の方々との意見交換し、知り合いになれたことは私にとって大きな財産となった。この経験をもとに、幅広い視野と柔軟な考えを持った技術者になるべく一層努力していきたい。

最後に、このような素晴らしい経験をさせていただいた、中村先生とはじめとした団員の皆様、JCCAおよびWAVEの関係者の方々に深く御礼を申し上げます。



写真4 街の中心部を行き交うトラムと歩行者【フライブルク】

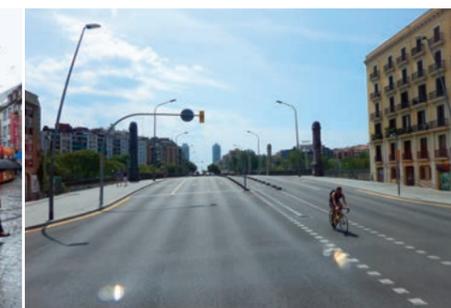


写真5 道路の真ん中に整備された自転車専用レーン【バルセロナ】